

## 第1回 就職氷河期世代支援の推進に関する関係府省会議 議事概要

日時：令和元年12月23日（月）10時30分から11時00分まで

場所：中央合同庁舎8号館 特別大会議室

出席者：

	西村 康稔	全世代型社会保障改革担当大臣
議長	古谷 一之	内閣官房副長官補（内政担当）兼内閣官房就職氷河期世代支援推進室長
副議長	多田 明弘	内閣府政策統括官（経済財政運営担当）兼内閣官房就職氷河期世代支援推進室長代理
	伊原 和人	厚生労働省政策統括官（総合政策担当）兼内閣官房就職氷河期世代支援推進室長代理
構成員	江島 一彦	内閣官房内閣審議官（内閣官房副長官補付）兼内閣官房就職氷河期世代支援推進室次長
	嶋田 裕光	内閣府政策統括官（共生社会政策担当）
	前田 一浩	総務省大臣官房総括審議官
	浅田 和伸	文部科学省総合教育政策局長
	横山 紳	農林水産省経営局長
	河西 康之	経済産業省大臣官房審議官（経済産業政策担当）（代理出席）
	前田 泰宏	中小企業庁長官
	蒲生 篤実	国土交通省総合政策局長
	黒田 岳士	内閣府大臣官房審議官（経済財政運営担当）兼内閣官房就職氷河期世代支援推進室次長
	山田 雅彦	厚生労働省大臣官房政策立案総括審議官（統計、総合政策、政策評価担当）兼内閣官房就職氷河期世代支援推進室次長
	佐藤 啓太郎	総務省大臣官房審議官（地域活性化担当）兼内閣官房就職氷河期世代支援推進室次長

### （議事次第）

#### 1. 開会

#### 2. 議事

- ・ 就職氷河期世代支援の推進に関する関係府省会議の開催について
- ・ 就職氷河期世代支援に関する行動計画2019（案）について

#### 3. 閉会

(配布資料)

資料 1 就職氷河期世代支援の推進に関する関係府省会議の開催について (案)

資料 2 就職氷河期世代支援に関する行動計画 2019 (案)

---

(概要)

(1) 内閣官房就職氷河期世代支援推進室長から冒頭挨拶

- 本日は行動計画を取りまとめるために関係府省の皆様にお集まりいただいた。これまでの関係府省の調整に感謝。
- 就職氷河期世代支援は経済対策の大きな柱の一つ。対策を踏まえ、支援の強化・加速化を図るための関係予算が令和元年度補正予算案及び令和二年度予算案に盛り込まれている。
- 計画で定めた3年で正規雇用者30万人増という目標を確実に達成できるよう、関係府省は引き続き相互に緊密な連携を図り、全力で取り組んでいただきたい。
- 予算事業、特に補正で計上した事業は来年の通常国会での予算成立後速やかに執行できるよう今から準備をしておいて欲しい。
- 社会全体で取り組む気運づくりが大事なので、所管業種、産業界への働きかけにしっかり取り組んでいただきたい。
- 氷河期世代の方々はそれぞれに事情が多様であるので、一人一人の事情や地域の実情に寄り添った支援メニューとしていくことが重要。
- 行動計画はゴールではなく一つの出発点。推進すべき施策はどんどん進め、改善が必要な施策は現場や関係機関の意見・声をしっかりと聞いて随時見直していただきたい。
- 今後も関係者の思いを一つにして積極的に就職氷河期世代の方々への支援に取り組んで行くことを願います。

(2) 事務局説明

- 内閣府政策統括官(経済財政運営担当)兼内閣官房就職氷河期世代支援推進室長代理から、資料1「就職氷河期世代支援の推進に関する関係府省会議の開催について(案)」の説明があり、本案が了承され、本関係府省会議を開催することについて申合せが行われた。
- 資料2「就職氷河期世代支援に関する行動計画2019(案)」について事務局から説明があり、出席者から特段異議は無く、本案のとおり「就職氷河期世代支援に関する行動計画2019」がとりまとめられた。

(3) 意見交換

- 内閣府政策統括官(共生社会政策担当)より、30歳以上40歳未満の就職氷河期世代にかかるポスト青年期を過ぎようとしている者への対応に関する講習開催への

支援等について発言があった。

- 総務省大臣官房総括審議官より、地方における雇用機会の創出、地方自治体における中途採用の取り組みについて発言があった。
- 文部科学省総合教育政策局長より、地域産業界のニーズを踏まえた実践的なプログラムの開発、教員免許を持っているものの教職についていない方々への支援について発言があった。
- 農林水産省経営局長より、農林水産分野における研修、リカレント教育、インターンシップを含めた受け入れ先や地方自治体とのマッチング支援について、発言があった。
- 経済産業省大臣官房審議官（経済産業政策担当）より、セキュリティ分野におけるキャリアアップ支援や人材マッチングについて発言があった。
- 中小企業庁長官より、就職氷河期世代と中小企業とのマッチングについて発言があった。
- 国土交通省総合政策局長より、観光業での旅館施設就業体験や内航海運業でのリカレント教育について発言があった。
- 厚生労働省政策統括官（総合政策担当）兼内閣官房就職氷河期世代支援推進室長代理より、労働政策と福祉政策の連携や、経済界・産業界との連携、地方のプラットフォームの取り組みについて発言があった。

#### （４）全世代型社会保障改革担当大臣から締めくくりの発言

- 行動計画の取りまとめに尽力いただき、改めて感謝。就職氷河期世代への支援は私が当選間もない頃から長年取り組んできたテーマ。当時、兵庫県や富山県での職場体験事業トライやる・ウィークの全国展開や、トライアル雇用など、若手で声を上げて支援の充実に取り組んできた。
- 大臣に就任して以降も、就職氷河期世代の採用に先進的に取り組んでいる複数の企業や当事者の方などから直接話を伺っている。
- 行動計画には、様々な事情に対応できる予算を含めており、まさに支援を強化・加速化を図るためのものであると認識。３年間で６５０億円を上回る財源を確保する旨を盛り込んでおり、実効性を確保することが大事。大きな一歩として、始まりの一歩として、これからも取り組んでいきたい。
- その際大事なことは、「一人一人事情が違うので、画一的な我々の思い込みで進めない方が良い」ということ。一人一人の実情や地域が置かれた実情を踏まえて、地域の創意工夫を活かしながらきめ細かな支援をすることが重要であり、政府、自治体だけでなく、企業、NPO はじめ民間の方々の協力を得ながらぜひ進めていきたい。
- 先月、全国プラットフォームを総理出席のもと開催したが、地域での取組が広がっていくことが重要。既に４府県（愛知、大阪、福岡、熊本）で先行的に始まっている都道府県プラットフォーム開催の動きを全国に広げていきたい。
- 今週水曜日（２５日）には、新しい交付金の創設に伴って内閣府に部屋を新設する。本日出席いただいている各府省からも人的貢献をいただいているが、引き続き政府

を挙げて支援に取り組んでいくので、施策の中身についてもまずは実行していき、その過程で改善していくことがあればより良いものに進化させていくという方針で進めていきたい。